

「家庭学習スタンダード」の活用実践事例

授業と授業をつなぎ、自己マネジメント力を育む家庭学習

白河市立みさか小学校

家庭学習の習慣化は図られてきている。決められた宿題には取り組めるが自ら課題を見つけて必要な学習に取り組むことがまだ十分ではなかった。自己マネジメント力の向上を目指して、自主学習への具体的な指導と、授業とリンクした家庭学習に取り組んでいる。

取組のねらい

自分の学びを意識し、自分で学習を計画・実行・見直す自己マネジメント力を育てたい
与えられた課題だけをこなすだけでなく、今日の授業や明日の授業、自分の興味関心のあることに對して、今の自分に必要な学習を意識して、自分で計画を立て実行し、その結果から次の学習の在り方について考え、また計画することのできる力を発達段階に応じて身に付けさせていきたい。

取組の内容

「生活ノート」の活用

毎日の家庭学習の様子や、基本的な生活習慣（食事・睡眠）などについて担任と子ども・保護者とでやり取りをする生活ノートに、4年生以上は自主学習の計画とチェックの欄を設け、記入するようにした。

保護者向け家庭学習の手引きの作成

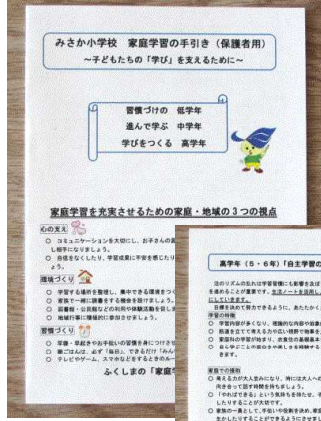
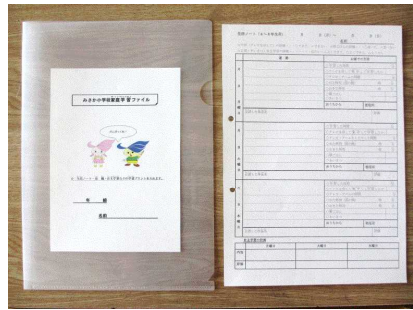
「家庭学習スタンダード」を基に、具体的な家庭学習の内容や取り組みせ方などについてまとめた「家庭学習の手引き」を低・中・高学年のブロックごとに作成し、4月に全家庭に配付して、意識づけを図った。

授業と家庭学習をつなぐ

授業研究を行う際の指導案検討時に、本時にかかわる内容で考えられる家庭学習についても協議し、指導案にも明記するようにした。

自主学習ノートの紹介

高学年において、階段の踊り場や教室等でお手本となるような自主学習のノートを紹介し、互いによいところをまねできるような環境づくりを行った。



実践して見えてきたこと

授業と家庭学習がつながることにより、授業が充実

家庭学習と授業がつながると、子どもの考えの事前の見取りができ、話し合いの際のコーディネーターがしやすくなったり、習熟の時間の確保ができるようになったりし、授業の充実が図られるようになってきた。今後もさらに授業とつながる家庭学習を実践していきたい。

自主学習の計画の立て方・取り組み方の具体的な指導時間の確保

上学年において、「生活ノート」に自主学習の計画を立てる欄を作ったが、記入する時間の確保や、書き方、書く内容などについて具体的な説明が十分ではなかった。来年度は年度初めにガイダンスなどを行って学校全体で活用の仕方を共通理解し実践していきたい。

「家庭学習スタンダード」の活用実践事例

「学びに向かう力」を支える家庭学習

白河市立白河第二中学校

本校生徒の実態として、家庭学習の習慣はおおむね定着しているものの、主体的な取組となっていない生徒が多い。また自分の力で根気強く課題を追究する姿勢や、授業での学びの良さに気づき、次の学習や自分の生活に生かそうとする姿勢も課題となっている。本校の研究主題である「学びに向かう力」を育てることでこれらの課題を改善できると考え、家庭学習スタンダードを生かした家庭学習のあり方を明らかにしていく実践を進めている。

取組のねらい

自分の力で根気強く課題を追究する姿勢を育てたい。

本校では、生徒が自ら主体的に家庭学習に取り組む姿勢を身に付けさせることを目指している。本校研究の軸となっている ARCS モデルを参考にした実態把握を生かした授業改善と同様に、家庭学習についても ARCS モデルを意識した取組を進めていく必要がある。とりわけ「やりがいがありそうだ」「やってよかった」と感じさせるような家庭学習のあり方を明らかにしていくことで、主体的に自分の力で根気強く課題を追究する姿勢を育てていきたい。

取組の内容

学習の手引きや家庭学習スタンダードを活用して家庭学習の進め方を指導する。

本校で作成した学習の手引きには、各教科の学習について記載しているが、家庭学習スタンダードの内容をふまえた家庭学習の進め方も各教科ごとに記載している。教科の家庭学習を通して、どのような力をどのようにして伸ばすのか等の具体的な取組について記載してあるので、生徒が「やりがいがありそうだ」「やってよかった」という気持ちを持たせることができると考える。年度初めのガイダンスで生徒に説明するのはもちろん、学期や単元の変わり目などでも積極的に活用して指導している。

学習の手引きや家庭学習スタンダードについて保護者への啓発をする。

家庭学習には保護者のサポートも必要である。年度初めの PTA 総会で全体で説明したほか、各学年の懇談会や面談などの際に積極的に活用している。特に家庭学習の習慣が定着していない生徒の家庭を中心に、どのような協力が効果的なのかを話したり、具体的な取り組み方について話したりしながら、家庭の協力を促している。

実践して見えてきたこと

家庭学習と授業をつなぐ工夫が必要である。

家庭学習の習慣を身に付け、主体的に取り組もうとする意欲をさらに高めるには、家庭での学習がどのように授業に生きるのかを実感させる必要がある。例えば、「予習したことが生かされる授業」「授業で学んだことが確認できる家庭学習」などを工夫することで、授業と家庭学習をつなぐことが重要になってくる。次年度は「学びに向かう力」を育てるために、授業と家庭学習をつなぐ工夫を意識しながら実践に取り組んでいきたい。

みさか小学校 家庭学習の手引き（保護者用）

～子どもたちの「学び」を支えるために～

習慣づけの 低学年
進んで学ぶ 中学年
学びをつくる 高学年



家庭学習を充実させるための家庭・地域の3つの視点

心の支え



- コミュニケーションを大切にし、お子さんの言葉に耳を傾け、心に寄り添ってよき話し相手になりましょう。
- 自信をなくしたり、学習成果に不安を感じたりしているときには、**安心感**を与えてあげましょう。

環境づくり



- 学習する場所を整理し、**集中できる環境**をつくりましょう。
- 家族で一緒に**読書**をする機会を設けましょう。
- 図書館・公民館などの利用や**体験活動**を促しましょう。
- **地域行事**に積極的に参加させましょう。

習慣づくり



- **早寝・早起き**やお手伝いの習慣を身につけさせましょう。
- 朝ごはんは、必ず「毎日」、できるだけ「みんなで」食べましょう。
- テレビやゲーム、スマホなどをするときの**ルール**を決めましょう。

ふくしまの「家庭学習スタンダード」より

低学年（１・２年）「基本的な学習習慣を身につける」時期

「早寝早起き」「規則正しい食事」「朝の排便」など、基本的な生活習慣を身につけることが学習の定着に欠かせません。自分でできるようになるまで、一緒に確認し、根気強くやらせることが大切です。できたことをほめることによって、興味・関心を引き出し意欲を高めることができます。生活ノートを活用して、家庭学習の習慣をしっかりと身に着けていきます。

学習の特徴

- ４５分を１時間とした授業の中で「読み・書き・計算」などの基礎的・基本的な内容を学習します。
- 生活と結びついた学習が多く、具体物を使ったり、実際に体験したりする学習が中心になります。
- 「正しい姿勢で座る」「鉛筆を正しく持つ」「学習用具を準備する（鉛筆を削る、時間割をそろえる）」「身の回りの整理整頓をする」ことなどが学習を支える基礎となります。

家庭での援助

- 毎日宿題をやりきらせましょう。
- 学校からの連絡やお便り、明日の授業などの準備などを子どもと一緒に確かめましょう。
- 家庭学習をする時は、できるだけ近くにいてあげましょう。
- 一緒に買い物をしたり、時計を読んだりしながら、子どもの生活経験を増やしましょう。
- 子どもの興味や関心、学年に応じた本をまわりに置きましょう。読み聞かせをしてあげることもとても大切です。

宿題の内容例

- 音読（「」の読み方に気をつけて、大きな声ではっきり読む。）
- ひらがな・カタカナ・漢字練習（文字の形、書き順に気を付けて丁寧に書く。）
- プリントまたはドリル ○ 作文（週末など）

宿題以外の学習の例

- 教科書の文章の音読練習をする。（「」の読み方に気をつけて、大きな声ではっきり読む。）
- ひらがな、カタカナ、漢字の練習をする。（文字の形、書き順に気を付けて丁寧に書く。）
- 間違えた問題をやり直してみる。
- 算数の教科書の問題をもう一度やってみる。
- 時計の読み方を練習する。
- 本・新聞を読む。
- 日記を書く。
- 動植物の観察をする。
- 鍵盤ハーモニカの練習をする。

学習時間のめやす

２０分～３０分（学年＋１０分）



中学年（3・4年）「自主学習の習慣を身につける」時期

自立心が芽生えてくるとともに、自分でやろうとすることが多くなり、「やる気」や「根気」が育つ時期です。語彙（言葉）の獲得能力が高くなり、抽象的な思考ができるようになっていわれます。生活ノートの形式が変わり、少しずつ自主学習にも取り組み、習慣化を図っていきます。

学習の特徴

- 総合的な学習の時間や社会、理科の学習が始まり、学習する内容も大きく広がります。
- 国語辞典や漢字辞典、地図帳などの使い方を学び、自分で調べる学習をすることが多くなり、自学自習の基礎を学びます。
- 算数では、四則計算（ $+$ 、 $-$ 、 \times 、 \div ）の基礎・基本を徹底して学ぶとともに分数や小数などの抽象的な内容も学ぶようになります。

家庭での援助

- あたたかい助言や励ましの言葉でやる気を起こしたり、宿題や持ち物を点検したりするなどの手助けが必要です。徐々に自分でできるように支援していきましょう。
- 自分から机に向かう姿勢を育て、集中して取り組む習慣をつけさせることが重要です。
- 学習する前に、学習する場所の整理整頓を行い、自分で今日の宿題を確認させ、必ずやりきらせましょう。学校からのお便りなどを親に渡す習慣をつけさせましょう。
- 社会や理科で勉強する地域社会の文化や産業、自然などに触れる体験をさせましょう。

自主学習の例

- 教科書の文章の音読練習をする。（様子が伝わるように、読み方を工夫して読む。）
- ドリルや教科書を使って、漢字の練習をする。（読み方、書き順を確認しながら。）
- 分からない言葉を辞書を使って調べて、意味や使い方をまとめる。
- ローマ字の練習をする。
- 算数の教科書の問題をもう一度解く。
- 計算練習をする。
- テストで間違えた問題をやり直してみる。
- 本・新聞を読む。
- 日記を書く。
- 都道府県の位置や名前を覚える。
- その日の授業で勉強したことをもう一度ノートにまとめる。
- 明日学習するところを読む。

学習時間のめやす

40分～50分（学年＋10分）



高学年（５・６年）「自主学習の計画・実践力を身につける」時期

生活のリズムの乱れは学習習慣にも影響を及ぼします。もう一度生活習慣を見直し、計画的に学習を進めることが重要です。生活ノートを活用し、自分で自主学習の計画を立てて、取り組めるようにしていきます。

目標を決めて努力できるように、あたたかく見守りながら励ましましょう。

学習の特徴

- 学習内容が多くなり、理論的な内容や抽象的な思考を伴う学習が増えます。
- 筋道を立てて考える力や広い視野で物事を見る力が必要となります。
- 家庭科の学習が始まり、衣食住の基礎基本を学びます。
- 自ら学ぶことの面白さや楽しさを経験することで、ものの見方や考え方を身につけることができます。

家庭での援助

- 考える力が大人並みになり、時には大人への反抗も見られるようになりますので、しっかりと向き合って話す時間を持ちましょう。
- 「やればできる」という気持ちを持たせ、子どもの自尊感情を育てるように、ほめたり、励ましたりすることが大切です。
- 家族の一員として、手伝いや役割を決め、家庭科などで学習した内容を生活の中で実践したり、生かしたりすることができるようにならせます。
- 学習する場所を決め、整理整頓し、計画を立てて学習が進められるようにさせましょう。時間を確保できるようにアドバイスしてあげることも大切です。
- メディア（テレビ、ゲーム、スマホなど）の使用時間は、約束を決めて守らせましょう。

自主学習の例

- 教科書の文章の音読練習をする。詩や俳句の朗読、暗唱をする。
- ドリルや教科書を使って、漢字の練習をする。（読み方、書き順を確認しながら。）
- 分からない言葉を辞書を使って調べて、意味や使い方をまとめる。
- 算数の教科書の問題をもう一度解く。 ○ 計算練習をする。
- テストで間違えた問題をやり直してみる。
- 本・新聞を読む。 ○ 日記を書く。
- 理科の学習の月や星の観察、社会の学習の歴史や生産物などについて調べてまとめる。
- その日の授業で勉強したことをもう一度ノートにまとめる。
- 明日学習するところの予習をする。
- 自分の興味を持ったことを追究しレポートや新聞などにまとめる。

学習時間のめやす

60分～70分（学年＋10分）

